

					職務能力向上研修
デジタル人材育成研修					
目 的	自治体におけるDXの進め方について、基本知識を学び、本来目指す業務の姿について再確認することなどを通じて、自治体DX推進の実現に向けた考え方を身につける。				
内 容	(1) 自治体におけるデジタル変革を学ぶ。 (2) サービスデザインの観点を取り入れ、課題や状況に合わせて対応できる考え方を養う。 (3) 演習を交えて、問題やニーズを把握し、今後の行動変容を促す。				
実 施 年 月 日	令和5年10月31日（火）	定 員	30名		
対 象 者	受講を希望する職員				
実 施 場 所	大分県自治人材育成センター				
推 薦 期 限	令和5年9月15日（金）	《第12回》	経 費 内 訳	内訳表1	
指 定 ホ テ ル	－		そ の 他 留 意 事 項	－	
研 修 講 師 (プロフィール)	【一般社団法人シビックテック・ラボ代表理事 市川 博之（いちかわ ひろゆき） 氏】 デジタル庁オープンデータ伝道師/総務省地域情報化アドバイザー/静岡県ICTエキスパート 開発エンジニア、コンサルティングファームを経て現職。 東京造形大学の特任教授としてデザインを教える傍ら、自治体へのICTコンサルティング・オープンデータ利活用や、市川電産CEO・一般社団法人シビックテック・ラボ代表理事として民間企業へのITシステム全般のコンサルティング・開発・情報利活用研修を行っている。				
受 講 者 の 声	・DX＝業務に電子媒体をとりいれるものだと思っていたが、事業根本からの見直し・デザインであるという考え方に変わった。				
	・DXというと、デジタル技術を駆使して業務の効率化を図ることをイメージしていたが、単純作業の効率化（RPAなど）はDXではなく、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすものということがよくわかった。				
	・デジタル技術的な話が中心かと考えていたが、DXの概念や考え方など、デジタル技術によらずとも、考え次第で業務改革が可能であることを学ぶことができた。日ごろから言われている「市民目線」で業務を設計しなおす「サービスデザイン」の考え方を知ることができ、前例踏襲的に行っている日々の業務についても改めて見直す余地やその必要性を感じることができた。				
	・研修生の意識改革の点において本当に素晴らしい研修でしたので、ぜひ他の職員にも受講していただきたいです。				
備 考					

時 間 割									
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	8:50	20	30					15	
1 日 目	受付	オリエンテーション	・DX概要 ・サービスデザインとは ・データ化、デジタル化、そしてDX ・目標から再設定しよう	昼食	・あるべき姿の全体像 ・提案の発表とフィードバック ・複数の価値を出してQoSの向上をはかる ・多角的観点を使ったレビュー ・質疑応答			閉講	

※上記内容は、研修実施時に変更されることがありますので、予めご了承ください。